

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195000120		
法人名	北見福祉事業サービス株式会社		
事業所名	グループホームしあわせ館		
所在地	北見市東相内町143-32		
自己評価作成日	平成26年10月9日	評価結果市町村受理日	平成27年4月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [/index.php?action_kouhvou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0195000120](http://index.php?action_kouhvou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0195000120)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

屋外活動を中心として、季節感を感じて頂く、気分転換を図る事ができる様に支援している。また、重度化により、地域医療機関、訪問看護等との連携を図り、終末期ケアも行っている。できる事の確認把握を行い、食事作り、盛り付け等ができる方と一緒にしている。また、清掃や洗濯物たたみ等を職員と一緒に行ったりと、グループホーム本来の活動、役割に近づけるようにしている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成26年11月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

北見市東相内地区に平成19年開設した当事業所は広い敷地を有し、2階建て2ユニットで運営しており、デイサービス、高齢者下宿が併設されています。日々のケアサービスは「人により深い笑顔で語らう 人により深い心に寄り添う」の理念を基本に利用者のペースに合わせた介護を心がけています。更に、経営方針を掲げ、目指すべき方向性を明確にし、常によりよい介護のあり方を追求しています。その中で昨年の外出支援から個別支援(外出、本人の希望にあった支援)へと幅を広げ、白寿、喜寿等のお祝いを家族と特別食で水入らずで過ごしたり、カラオケ、買い物、外食、ひばり合唱団参加、蓮池を見に行くなど、利用者の様々なニーズ実現に向け取り組んでいます。又、事業所の大イベント、サマーフェスティバル、敬老会、クリスマス会の他に、屋外活動(鍋、焼き羊、焼き肉等)が臨機応変に行われ普段は見られない利用者の笑顔を引き出しています。代表者、管理者は職員の専門性向上に向け内部研修の充実やケア会議、連絡会議を通じて統一したケアの伝達と目標が結果に結びつく努力を重ねています。地域との関係性は良好で運営推進会議や行事等で交流を図ると共に母体法人は訪問介護、居宅介護支援の福祉サービスも行って地域を支えています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を目標に職員全員で共有し日々のケアに繋がっている。	介護理念を日々のケアの基本として実践に繋がっています。又、経営方針を掲げ目指すべき方向性を明確にし、常により良い介護のあり方を追求しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の方々との挨拶や、会話等の交流を図っている。又、町内会活動への参加、町内会の方の慰問等の交流を図っている。	町内会に加入し散歩時の挨拶や会話、運営推進会議、行事等で理解を得ると共に交流を深めています。保育園児の慰問やボランティアの協力で利用者の楽しみある生活に繋がっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で、認知症についての理解をして頂く機会を設けたりしている。又地域資源の情報提供や地域の方と包括支援センター、地域交番等公共機関との連携が図れる様に交流を図っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、日々のケアや入居状況、地域の方からのご意見等を伺い、サービスに生かしている。	2ヶ月毎に町内会長、民生委員、包括支援センター職員、駐在所、市職員等をメンバーとして開催し、事業所の状況報告等、多用な意見を通してサービス向上に役立っています。	家族の参加要請は口頭で行っていますが、今後は参加に結びつく工夫と議事録を欠席されたメンバーや家族で共有する取り組みを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点は随時、市役所の担当者に確認、相談する等の連携を図り、サービス提供が円滑に提供できる様努める。	市の担当職員とは不明な点や相談等で連携を図り、サービスが円滑に提供できるよう協力関係を築いています。又、運営推進会議を活用し、情報を共有し事業所への理解を深めています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除宣言を掲げ、身体拘束を行わないケアを実施している。又身体拘束廃止マニュアルを設置している。更に、内部研修において、身体拘束についての周知を行っている。	身体拘束排除宣言を掲げると共に、内部研修において身体拘束となる具体的な行為について周知を図り、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。又、気になる言葉づかい等は都度注意を促し、虐待についても討議の場を設け日々のケアを振り返っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等を通じて、高齢者虐待とはどういう事か、自分たちの日頃のケアを思い出し、討議の場を設けて理解を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての意識は薄く、理解が不十分である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、ご家族が解りやすく説明する事を心掛けている。また、不明な点がないか、ご質問はないか等を確認し、何かがあれば都度相談しながら対応を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、ご家族が相談しやすい関係性・雰囲気づくりを大切に、ご意見や要望で反映すべき事はスタッフと話し合い運営に反映している。	利用者、家族が意見を表出しやすい関係構築と雰囲気作りに努め、直接言って貰えるよう働きかけています。出された意見、要望は全体で話し合い運営に活かしています。又、日々の利用者の様子は来訪時や請求書と一緒に写真で伝えられ、事業所ホームページにもイベントや利用者の様子が掲載されています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議・話し合いでの職員からの意見や思いを求め運営に反映が必要と判断した場合早急に反映出来る様努めている。	毎月のケア会議や連絡会議、日常業務の中で意見や提案を聞き、運営に反映させています。職員は代表者や管理者との個人面談を通じてモチベーション向上に役立てています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況、職員一人一人の性格を把握し、やりがいを持って働けるよう頑張っている人が報われる様に給与に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修・外部研修に参加する機会を作り、日々のケアに繋げられるよう努めている。また、職員一人一人が利用者様の理解を深められる様時間をかけ業務把握ができる様に心がけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	自治体、内外の同業者との研修や交流機会を持ち、新たな知識やサービス展開に繋げられるような情報交換、収集を行い、サービスの質の向上につなげている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前のご本人との面接時に要望不安がないか等をお聞きし、ご本人の不安や困っている事が軽減され、安心した生活が送れるよう努めており、本人が自分の思いを伝えやすい雰囲気づくりを心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時にできる限り家族の方に同席して頂き、不安な事や困っている事を伺い、解決できる様努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時、入所申込み時に、その方の世帯を含め、ケースに合わせて、他のサービス利用をお勧めする等のアドバイスをを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念を元に、お一人お一人の入所者様に寄り添い、共に生活をする上での支援ができるように関係性が良好に保てるよう配慮している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の関係性を大切に出来るようにケアプランに反映し、家族の方と協力し、ご本人の生きる事への支援をさせて頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の通い慣れたお店や床屋に通う事で、生活の継続性を大切にしている。	利用者の馴染みの商店での買い物や理容院への支援をしています。自宅を見に行ったり知人の来訪もあり、関係が継続できるよう努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフは利用者様一人一人の性格を把握、理解し、関係性が良好に保てるよう配慮、調整している。また、個々に交流が保てるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院・退去時の医療機関等への情報提供はもちろん、退去された後にもご家族の方等から、相談や新規ご紹介等を受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族の意向や希望を伺い、家族と相談しながら対応している。	職員は日常生活の中での会話や家族の聞き取りから本人の意向を把握し、希望や思いに近づけるケアを実践しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の時点で、これまでの生活歴や病歴等をスタッフに把握して頂き、どのような支援が必要かご本人やご家族の思いも含め、受け止める様努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人お一人の生活のリズムや心身の状態、残存能力を理解する事が全員のスタッフに浸透しておらず、全員のスタッフが把握できるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月2回の会議等で、ご本人にとっての心地良さや、現状の課題点を会議で話し合い、本人・家族と相談しながら計画書の作成を行っている。	アセスメントやモニタリング、毎日の会議を通して利用者の現状を確認しながら介護計画を作成しています。個人の生活記録にサービス内容が記載されており、適切にサービスの提供が出来るよう工夫しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアについての記録はなされているが、気づきや工夫までの記入がなく、介護計画書になかなか反映されていない。計画書作成時にはスタッフと話し合い、計画書に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同一敷地内の施設を利用した、ご夫婦で入居されている方への支援や、同じく同一敷地内の施設での余興の楽しみ、法人を上げての行事等の利用を行い多機能化を図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	医療機関や、地域施設、自治体等の公共設備、団体等を把握し、活用する事ができている。ボランティアによる付き添い外出等を実施している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族やご本人と相談しながら、かかりつけ医への定期受診や往診での診療を受ける事ができている。	協力医療機関(内科医・歯科医)の往診で日常的な診療を行うとともに緊急時・看取りなどを支援しています。かかりつけ医に受診時は職員が付き添い家族と情報の共有を図っています。週1回訪問看護師による健康管理も行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制で訪問看護師へ利用者様の日々の状況をお伝えし、情報共有や、報告・相談を行っている。又、施設内看護職員とも情報の共有を図り、迅速な対応を図っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関へ情報提供をさせて頂き、早期に退院できる様医療機関やご家族とも連絡を図って対応している。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期のお話をさせて頂いているが、実際の終末期ケアになる時点でご家族にご家族へ再度確認を行い、相談しながら利用者様が望まれる生活を第一に考慮してチームケアで支援している。	入居時に事業所ができることを家族に説明しています。今までに看取りが行われており、家族の意向を確認しながら主治医や訪問看護師等と連携し職員間で情報を共有し、家族の思いに添った支援に努めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルの整備はされているがすべてのスタッフが実践できていない現状がある。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の避難訓練は基本的に年2回実施しているが、地震、水害等への防災訓練等は実施されていない。対策マニュアルの設置はある。	年2回の夜間想定避難訓練を実施し、災害時の非常用食料等も準備しています。緊急時連絡網に地域住民を登録出来るよう検討しています。	火災想定避難訓練を実施していますが、その他の災害想定訓練や、避難時持ち出しリストの作成、地域の協力体制作りはこれからの課題となっています。今後、地域住民の協力を得ながら訓練していくことを期待します。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人を理解した声掛けを行う事ができている。	利用者の人格を尊重して、命令口調や禁止語を使わないよう配慮し、本人の意志を確認してからケアを行うよう心掛けています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が自分の思いを表現できる方の対応はできているが、意思決定できない方には思いを汲みとる事に力を入れて対応を図っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の日課や都合にあてはめず、お一人お一人の望む生活が送れる様心がけている。今後も本人の望む生活が継続できる様支援させて頂いている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毛染めやお化粧品等ご本人のお洒落や、外出時の身だしなみ、髪型等へのご希望にあった支援を行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1Fは厨房からの食事提供を行い、2Fでは各食事作りを、利用者様とスタッフで実施している。	食事の準備、盛り付け、後片付けなど利用者は職員と一緒にを行っています。季節感を大事にし、野外で流しそうめんや焼肉、お餅つきをしたり、おはぎを手作りし食事を楽しめるよう工夫しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量を把握し、適切な量の摂取がなされているか適時確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、個人に合わせて歯ブラシや口腔ケア用スポンジ、歯間ブラシ等を使用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人のADLや身体状況、疾患等を把握し、極力トイレでの排泄を心がけている。	排泄の支援は排泄チェック表を利用してトイレで排泄出来るよう声掛けし誘導しています。夜間はポータブルトイレを使用し、出来る限りオムツに頼らない支援を心掛けています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やその他の食品、冷水等の飲用の工夫、下剤の調整等で自然排便を促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	定期的入浴や、2Fにおいては入浴時間の自由度を広げた入浴時間の設定を図っている。	入浴は週2回以上を目安に、体調や気分に合わせて、出来るだけ希望に沿った入浴支援に努めています。就寝前に入浴希望の利用者もあり、くつろいだ気分でゆったり入浴出来るよう配慮しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人の生活習慣や状態、状況に合わせた活動量と休養のバランスを図ったケアを図っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の一覧表を作成し、個々に確認ができるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しい時間や、ハリのある生活が送れる様、外出を行なったり、ご本人の役割を持って頂けるような対応を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人が散歩されたいときにはスタッフが付き添い対応し、屋外行事を中心とした行事を行い、地域行事、催し等へも参加できる様支援している。	日常的に散歩や買物に出掛けています。馴染みの理髪店やカラオケに行ったり、ひばり合唱団の練習や発表会、回転寿司等、利用者の希望を尊重した支援を心掛けています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	何人かの利用者様には手元にお小遣いを所持して頂き、買い物等ができる様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族やご親類からの電話の対応やお手紙を出す際にはポストへ投函する等の支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは清潔で採光を多く取り入れる事で明るい雰囲気と、個々に気に入られたポジションへの着座ができる様になっている。食堂で過ごす方、ソファで過ごされる方等個々に過ごす事ができている。また、壁等を利用して季節の飾りつけ等を行い、季節感を持って頂けるようにしている。	ユニット毎に利用者の状況により若干の差異はありますが、共有空間は広く明るく清潔で、各所に手摺を設置し安全に配慮しています。冬場にはクリスマスの飾り付けが施され季節感を出すよう工夫されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの方が思い思いの場所で、交流を図る事が出来る様、また交流が図れる様に居場所の調整を適時図っている。また、身体的に重度化されている方等も一緒に過ごせる様、体調に合わせてリビングで過ごして頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内にはご自分が使用されていた馴染みの物やご家族の写真等を持参頂いており、ご自分の居室である事の認識や居心地の良い空間として利用して頂く事ができている。又、体調に合わせてベット等もご本人に合ったものを使用させて頂いている。	利用者がこれまで大切にしてきた絵や写真、家具のほか、家族の意向に沿った調度品を持ち込み、職員と共に配置を考え一人ひとりの個性が反映された安心感のある居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	調理も職員と一緒にすることのできる広いキッチンが設置がなされており、実際に調理、盛り付け等を行っている。また、1階への階段には、転落防止のガードを設置し、安全配慮を行っているが、特に施錠はしていない。		